

医療介護に関する市民向け講演会 《報告》

「最期まで自分らしく」

日時:2019年10月31日(木)14時~16時

場所:姫路キャスパホール

社会学者、東京大学名誉教授の上野千鶴子さんをお招きし、「最期まで自分らしく」と題してお話いただきました。天候にも恵まれ、293名の皆さまにご参加いただきました。

日本の医療・介護サービスの現状やこれからについて、具体的なデータや様々な事例をあげて分かりやすく、そしてユニークな表現で笑いも交えながらお話いただきました。中には、家で最期を迎えるための費用について、参考となる事例の提示があったり、「在宅ひとり死」については、施設にいる方、お金がない方、限界集落にいる方などの現場の写真と共に、1つ1つ物語のように語られたりしました。アンケート回答者の94%が講演内容を「とても良かった、良かった」と回答されたことから、参加された皆さまにとって大変実りのある時間になったと考えています。



【講演後の感想】「昨年パートナーが旅立ち、ひとりで辛い時間を過ごしていたが、この講演で元気と勇気をもらえた」という方がいらっしゃいました。
【質疑応答】「家でひとりで亡くなると、救急車や警察が来てしまう、どうすればよいか」との問いに対し「救急隊は救命、警察もその任務があるのは当然。家で穏やかに最期を迎えたいのであれば、事前に医療介護関係者、親族、近隣の方々ともしもの時の話し合い(救急車・警察を呼ばずに、かかりつけ医、訪問看護師に連絡、等)が大切であることを話されました。」

ご参加いただいた方からのご意見（アンケートの一部）

このような講演は初めてだったのですが、大変勉強になりました。これからの自分の生活に役に立つ事が多かったです。

おひとり様ですが、どうありがたいという自分の最期が決まったように思います。ありがとうございました。

歯切れが良く解りやすい話で大変楽しく勉強になりました。今一度自分の老後を考えてみようと思います。

厳しい介護の現実、看取り・在宅医療への希望を感じた非常にわかりやすい内容でした。幸せな自宅で最期を迎える方向に社会全体で取り組んでほしい。

何年かのちにもう一度上野さんを講師として会を開いてほしい。私たちの成長も話したい。

老いも、女性も、障害も、「機嫌よく生きる」って素敵！上野さん、ありがとうございました！